

実施報告

吾妻川流域で大規模土砂災害を想定した合同防災訓練を実施しました。



訓練の様相

中之条町、長野原町、嬭恋村、草津町、群馬県、国土交通省等の防災担当者が一堂に会し、地震後の初動対応から大規模土砂災害の発生、地震後の降雨といった一連の流れを想定した防災訓練(学習型防災訓練)を実施しました。

参加機関からは、他機関との情報共有が大事であることがわかった等の意見が多く、関係機関の連携の重要性が再認識された訓練となりました。



嬭恋村
熊川村長挨拶



永田事務所長挨拶



訓練講評

1. 訓練の背景

- 同時多発的な土石流や河道閉塞等の大規模土砂災害は、経験することが少ない一方、ひとたび発生するとその被害は広範囲におよび、通常の土砂災害対応に加えて多岐にわたる対応が求められます。
- 平成23年5月、土砂災害防止法の一部改正・施行に伴い、大規模土砂災害が急迫している状況下で、国または都道府県は、市町村が行う警戒避難を技術面から支援することとなりました。
- 平成28年4月発生した熊本地震では、地震とその後の降雨により、土砂災害が発生し、多くの被害が生じたため、このような状況下における連携対応の確認・検証も必要であると考えています。

2. 訓練想定

- 大規模地震発生に伴う同時多発的土砂災害
- 大規模崩壊による天然ダムの形成 など

3. 訓練目的

- 利根川水系砂防事務所、群馬県、関係市町村および警察、消防、自衛隊、気象台の防災担当者等が一堂に会して大規模土砂災害に対する防災訓練を実施することにより、関係機関との連携対応について確認を行い、危機管理能力の向上に資することを目的として実施します。

4. 訓練開催日時・会場

実施日時 令和元年8月2日(金)

開催場所 孺恋会館

参加機関

国の機関 利根川水系砂防事務所、前橋地方気象台

群馬県 (総務部危機管理室・県土整備部砂防課)

(中之条土木事務所)

(吾妻行政県税事務所)

(吾妻・長野原警察署)

地元自治体

中之条町、長野原町、孺恋村、草津町、

吾妻広域消防本部

その他 関東地方防災エキスパート

利根川水系砂防ボランティア協会

参加人数 15機関48名、見学者 5名

学習型防災訓練とは

■ファシリテーター(司会進行役)が災害シナリオに沿って訓練参加者に質問を投げ掛け、回答を求める質疑応答型の訓練です。

■特徴

- ・司会進行役の状況説明(シナリオ進行)を聞くことによって参加者全員が災害対応行動等の流れを共有・理解できます。
- ・各機関の回答を全員が同時に聞くことによって、他機関がどのような対応をしているのか理解できます。
- ・時間軸にとらわれないため、場面を区切った訓練ができ、その都度、補足や解説を行うことにより理解度の向上が図れます。



■基本的な進め方

「進行者」と「訓練参加者」に分かれ、状況提示を行った上で、「進行者」が対応について質問し、これに「訓練参加者」が回答する形式で進行する。このように、逐次対応する形で行うので、実時刻に基づいた進行とはなりません。

進行者

訓練参加の各組織をひとつの災害対策本部、もしくは災害対策支部と見立て、それぞれに質問する。



「〇〇で大規模な崩壊が発生し、△△の状態になっている。」との報告が入りました。あなた方の組織では、どのような行動をとりますか？



回答者を特定して当てることはしない。あくまでも訓練参加組織に対して質問し、組織として回答してもらう。

訓練参加者

質問内容に応じて、訓練参加組織内での回答者を決めて、発表する。



私たちの組織では、〇〇を第一に考え、□□を行います。

回答者は与えられた設問に対してその場で考え、すぐに回答してもらう。(相談等の時間的余裕はない)